

・解答

	仕訳			
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	買掛金	100,000	支払手形	100,000
2	従業員立替金	400,000	当座預金	400,000
3	備品	200,000	当座預金	100,000
	消耗品費	20,000	未払金	120,000
4	買掛金	250,000	仕入	250,000
5	旅費交通費	20,000	当座預金	60,000
	消耗品費	30,000		
	雑費	10,000		

問 5・別解

(借) 旅費交通費 20,000 / (貸) 小口現金 60,000

(借) 消耗品費 30,000

(借) 雑費 10,000

(借) 小口現金 60,000 / (貸) 当座預金 60,000

・解説

1. 為替手形の引き受けに関する問題です。為替手形については苦手意識をもっていらっしゃる方が多いようですが、その原因は「暗記」で対応しようとしているからです。為替手形の論点に関してはぜひ「理解」するようにしてください。

さて本問では、問題文に「当店はこの仕入先に対して 250,000 円の商品代金の未払いがある」とありますが、これは稲葉商店に対して買掛金が 250,000 円あることを意味します。ここで、稲葉商店とは以下のようなやりとりがあったと考えると分かりやすいと思います。

稲葉商店・・・「どうも、稲葉商店店主の稲葉一鉄です。」

当店・・・「どうもどうも、美濃三人衆のお一人でいらっしゃる稲葉さん。何か御用ですか？」

稲葉商店・・・「あのさー、うちっておたくに対する売掛金 250,000 円ありますよねえ。」

当店・・・「確かに稲葉商店に対する買掛金 250,000 円ありますねえ。」

稲葉商店・・・「今回さー、仕入代金の決済にこの売掛金を使いたいんだけどいいですかねえ？」

当店・・・「仕入に伴って発生する新たな債務と、うちに対する債権を相殺したいということですね。」

稲葉商店・・・「そうなんですよ。為替手形を引き受けてもらえます？」

当店・・・「じゃあうちが手形を引き受けましょう。すぐに記名押印してお渡ししますね。」

稲葉商店・・・「ありがとうございます。では手形分だけ売掛金を減らしておきますね。」

当店・・・「うちも手形分だけ、おたくに対する買掛金減らしちゃいますねー。」

いかがでしょうか？為替手形に関しては、このように会話形式で考えるとイメージしやすくなると思います。それではまず稲葉商店から考えてみましょう。稲葉商店は、仕入にともない発生した代金の支払いを、当店に対する売掛金で支払っていますので、以下のような仕訳を切ることになります。

#### ☆稲葉商店の仕訳

(借) 仕入 100,000 / (貸) 売掛金 100,000

では次に当店を考えてみましょう。当店は為替手形を引き受けたことにより手形債務が発生しましたが、同額だけ稲葉商店に対する買掛金が減少していますので、以下のような仕訳を切ることになります。

#### ★解答の仕訳

(借) 買掛金 100,000 / (貸) 支払手形 100,000

最後に稲葉商店に商品を販売した商店の仕訳を考えてみましょう。この商店は売上にともない発生した債権を、当店引き受けの為替手形で受け取っていますから、受取手形の増加を認識することになります。

#### ☆稲葉商店に商品を販売した商店の仕訳

(借) 受取手形 100,000 / (貸) 売上 100,000

為替手形に関しては、上記のように三者の仕訳を考えると理解が深まりますので、練習段階では必ず三者の仕訳を考える癖をつけてください。ひとつひとつ分けて考えていくと別に難しくもなんともない、ということがお分かりいただけるとと思います。

2. 立替金に関する問題です。本問は、問題文に「従業員 10 名が負担すべき当月分の生命保険料 400,000 円」とありますが、この小切手の支払いは会社にとって負担義務の無い支出ですので、従業員立替金勘定で処理します。

また、問題文の後半に「当月末にこの生命保険料は、従業員の給料（総額 5,000,000 円）から差し引くこととした」とありますが、これは今回の立替金の回収方法に関する記述ですので、本間においてはダミーデータとなります。

なお、解答の勘定科目については、特に指定が無い場合は「立替金」勘定でも「従業員立替金」勘定でもどちらでもOKですが、本試験では、問題で列挙されている勘定科目の中からどちらかを選ぶようにしてください。

立替金がメインの問題は、第 104 回の間 4や第 126 回の間 3でも出題されていますので、本間とセットで必ず押さえておくようにしてください。取引の時系列的には「本間→第 104 回の間 4・第 126 回の間 3」という流れになります。

3. 固定資産の購入と消耗品に関する問題です。本間はまず、備品と消耗品を区別できたかが第一のポイントになります。

さらに消耗品に関しては【消耗品】勘定で処理する場合と【消耗品費】勘定で処理する場合がありますが、本間は問題文で与えられている勘定科目の中に「消耗品」勘定がありませんので、【消耗品費】勘定を使って処理していくことになります。

なお、購入時に費用処理したもののうち、決算期末において未費消分がある場合は、以下のような仕訳を切ることになりますので併せてご確認ください。

☆参考・決算期末において 5,000 円の未費消分があった場合の仕訳

(借) 消耗品 5,000 / (貸) 消耗品費 5,000

ではついでに、消耗品を購入時に「資産計上」する場合の仕訳も確認してみましょう。購入時に費用処理した場合と大きく異なる点は、決算期末に消費した分を費用計上する点です。仕訳は以下のようになります。

☆参考・消耗品取得時の仕訳

(借) 消耗品 20,000 / (貸) 当座預金など 20,000

☆参考・決算期末において 5,000 円の未費消分があった場合の仕訳

(借) 消耗品費 15,000 / (貸) 消耗品 15,000

ポイントは、決算時に振り替える額が、未費消分なのか費消分なのかという違いです。簡単にまとめておきますので、この論点についてはこの場で理解するようにしてください。

～まとめ～

■消耗品を購入時に資産（消耗品勘定）処理する場合

- ・購入時・・・支出額を消耗品勘定で認識
- ・決算時・・・既費消分を消耗品費勘定で認識

■消耗品を購入時に費用（消耗品費勘定）処理する場合

- ・購入時・・・支出額を消耗品費勘定で認識
- ・決算時・・・未費消分を消耗品勘定で認識

固定資産と消耗品がセットになった問題は、第 123 回の問 3でも出題されていますので、併せて確認しておいてください。

4. 仕入戻しに関する問題です。仕入戻しとは、仕入先に商品を返品することですから、仕入時の仕訳の逆仕訳を切ることになります。

☆仕入時の仕訳（既に切られている仕訳）

（借）仕入 500,000 / （貸）買掛金 500,000

★解答すべき仕訳（逆仕訳を切るだけ）

（借）買掛金 250,000 / （貸）仕入 250,000

なお、問題文の許容勘定群に「仕入」勘定ではなく「仕入戻し」勘定しかない場合は、仕入勘定の評価勘定である仕入戻し勘定を使って処理することになります。なお、仕入戻し勘定はその後、決算整理のときに仕入勘定に振り替えることになります。

☆（参考）仕入戻し勘定を使う場合の仕訳

（借）買掛金 250,000 / （貸）仕入戻し 250,000

☆（参考）決算整理時

（借）仕入戻し 250,000 / （貸）仕入 250,000

仕入戻しに関する問題は、第 106 回の問 2でも出題されていますので、併せてご確認ください。どちらも簡単なボーナス問題ですので、絶対にとりこぼさないようにしてください。

5. 小口現金の問題です。本問には「直ちに資金を補給した」といういつものお決まりフレーズがありませんので、小口現金勘定を使った別解も考えられます。個人的には、小口現金勘定を使わない仕訳のほうが自然だと思いますが、念のために押さえるようにしてください。

☆別解

(借) 旅費交通費 20,000 / (貸) 小口現金 60,000

(借) 消耗品費 30,000

(借) 雑費 10,000

(借) 小口現金 60,000 / (貸) 当座預金 60,000

なお、小口現金の問題は通常、「直ちに資金を補給した」という文言がありますので、この場合は小口現金を経由することなく、直接、当座預金を減少させる解答の仕訳を切るようにしてください。

小口現金に関する問題は、第 103 回の問 2や第 105 回の問 3、第 112 回の問 4、第 121 回の問 4、第 126 回の問 2でも出題されていますので、併せて確認しておいてください。実際に比較していただければお分かりになると思いますが、いずれの問題もほとんど同じ形式で出題されています。